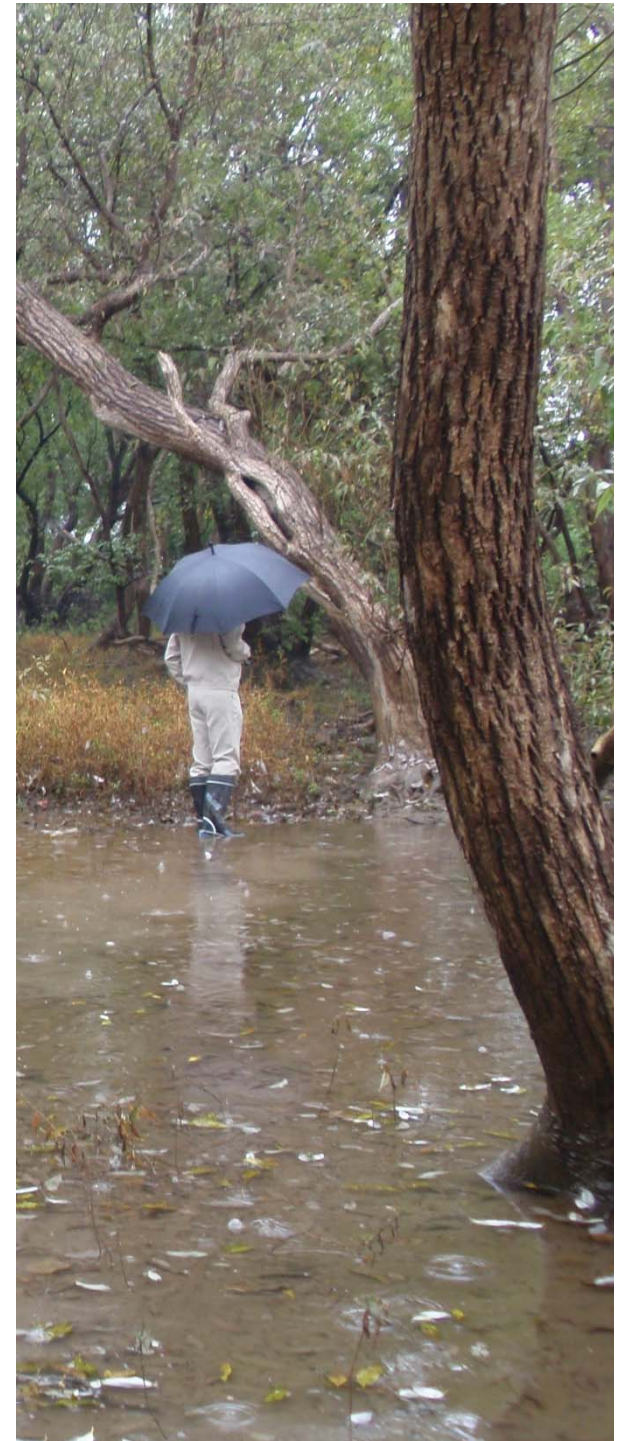


多自然川づくりの視点からの 植生管理の考え方

中部技術事務所 環境共生課
藤井 美有



多自然川づくり基本指針 | 平成18年10月

多自然川づくりとは

河川全体の営みを視野に入れた河川管理を行うことであり、すべての川づくりの基本であり、河川管理における全ての行為が適用の対象となる。

維持管理での多自然川づくりの現状

- 整備後、環境面ではほとんど行われていない。
- 定期的な調査が活用されていない。 等



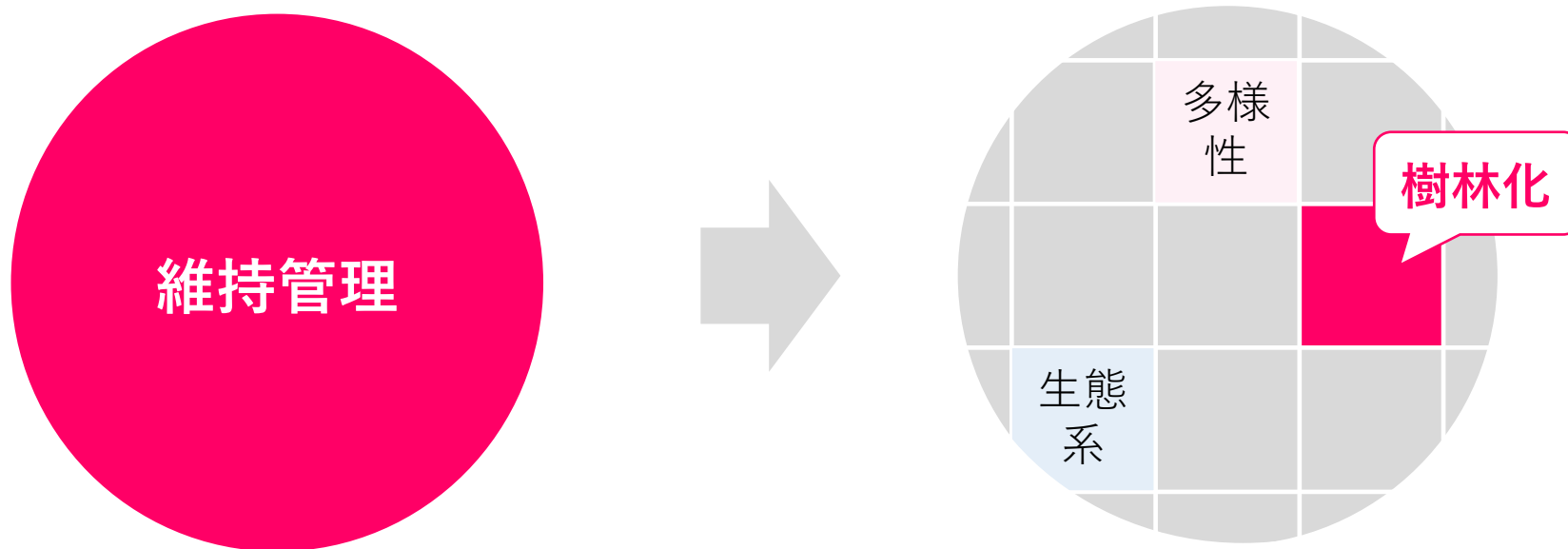
多自然川づくりの維持管理ができていない。

「方法が明確ではない」

多自然川づくりの視点からの維持管理方法を
検討していく必要性がある

維持管理での多自然川づくりの現状

維持管理といっても内容は多種多様。
環境劣化・流下能力阻害につながる樹林化に着目。

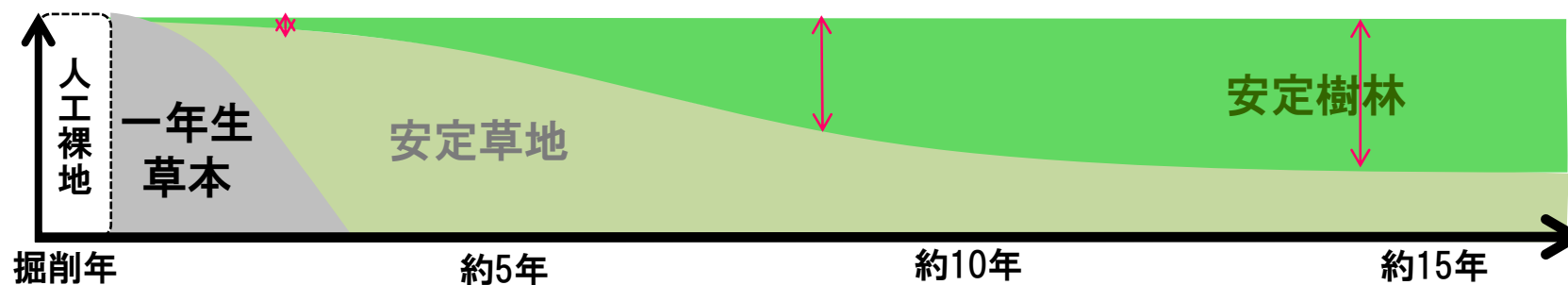


治水と環境の両方から、同じ方向を見て対応出来る。

樹林化の現状

樹林伐採後の再繁茂が課題

自然環境において植物は遷移する

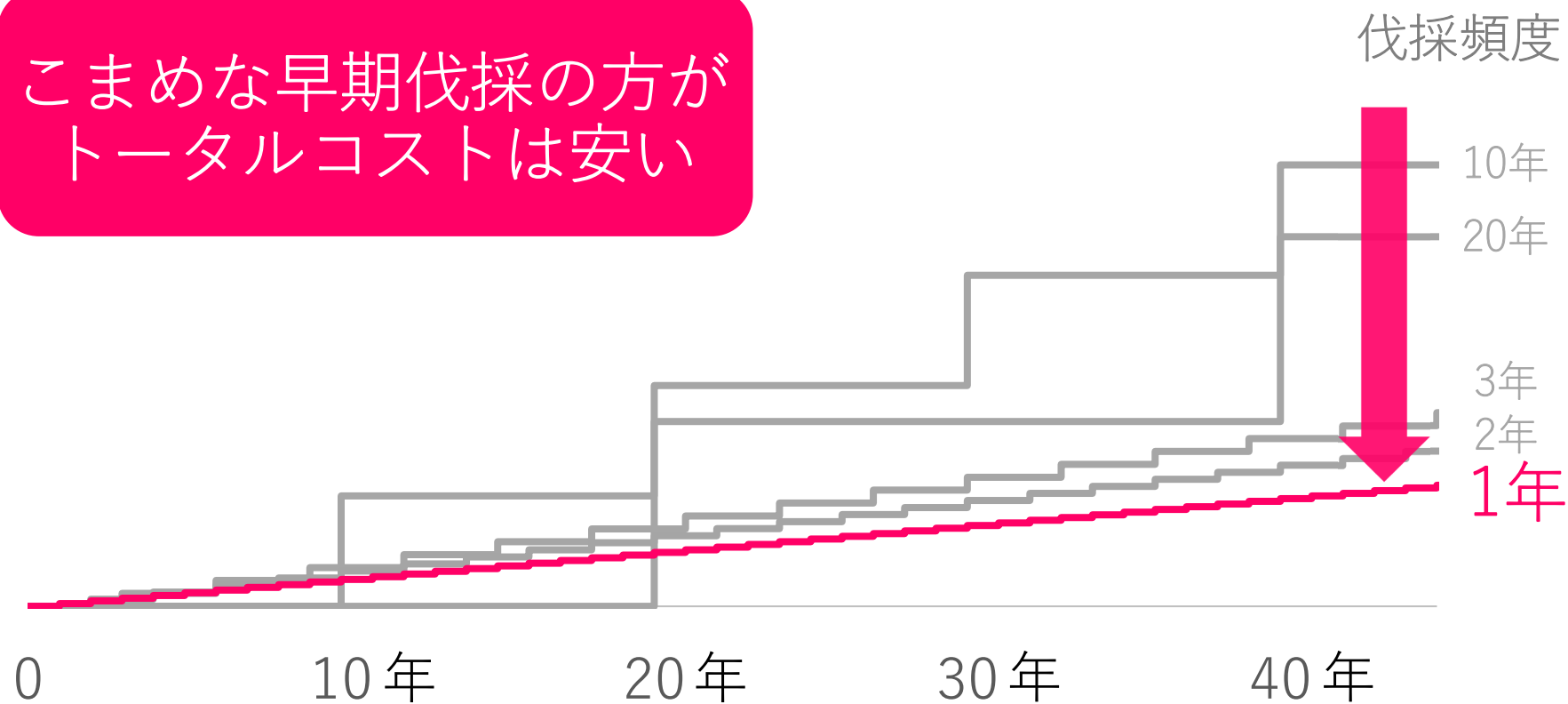


早ければ早いほど、対策を講じる面積は小さい

樹林化の現状

樹林伐採コストの推移（イメージ）

こまめな早期伐採の方が
トータルコストは安い



樹林化の現状

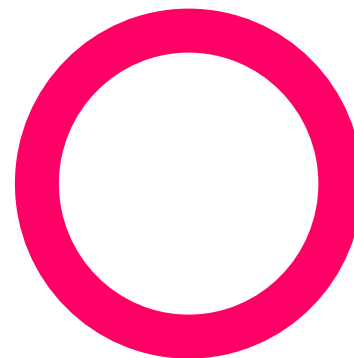
現在

樹林になってから伐採
「事後保全」



将来

早期に対応する
「予防保全」



効率的な植生管理

一概にそう言えるか？

各河川の状態変化

河川
ごと

どの河川も一様な早期伐採が必要かどうか蓄積された定期調査結果をもとに行う。



「定期縦横断測量」
現在の河川形状の把握

5年



「河川水辺の国勢調査」
環境・生物等の基礎情報の収集

5年

蓄積された地形・植生データより
河川の性質を視覚化

各河川の状態変化

経年
変化

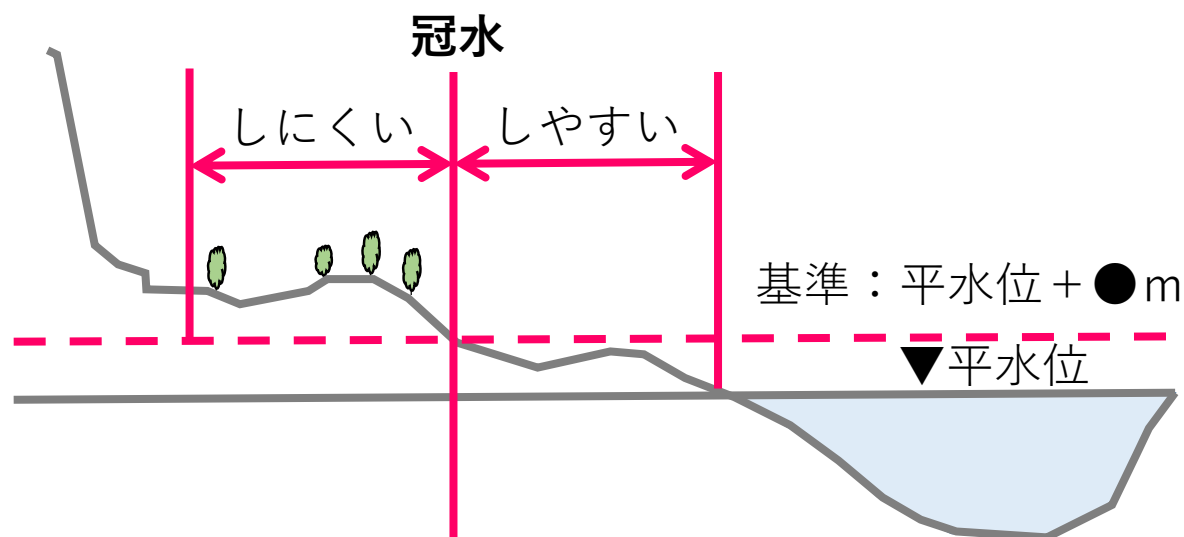
河道特性による植生変化を推測

検討箇所

庄内川上流
(セグメント1)

揖斐川下流
(セグメント2-2)

地形条件



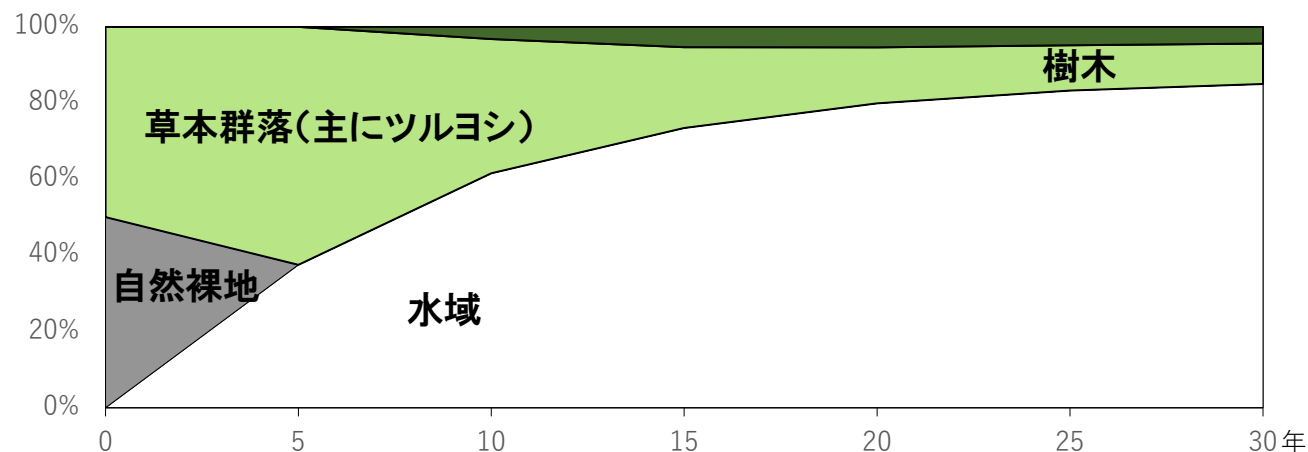
植生タイプ別の变化確率

地形条件

冠水の影響を受ける箇所

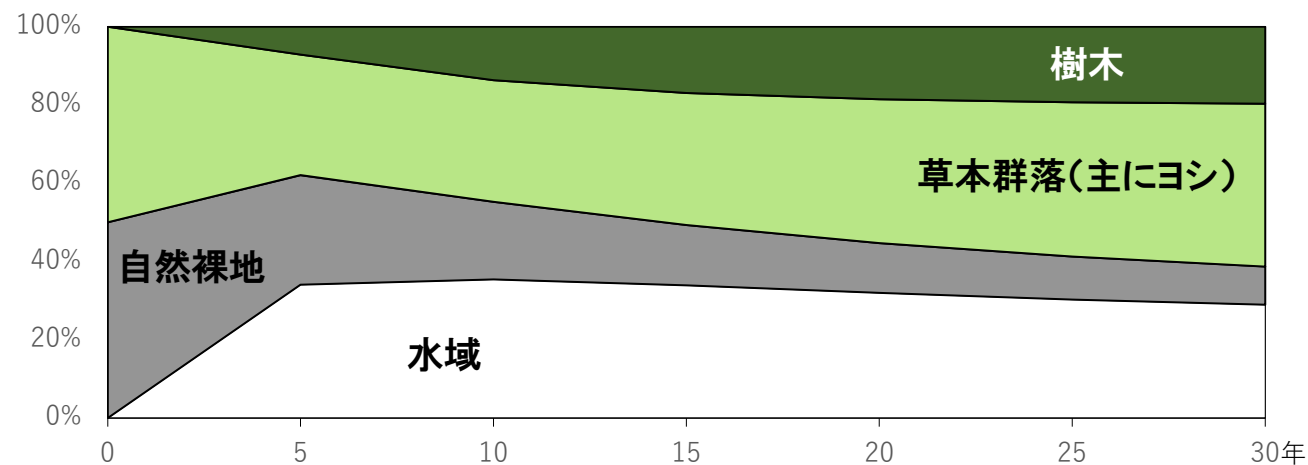
庄内川上流部 (セグメント1)

平水位+0.5m未満



揖斐川下流部 (セグメント2-2)

平水位+1m未満



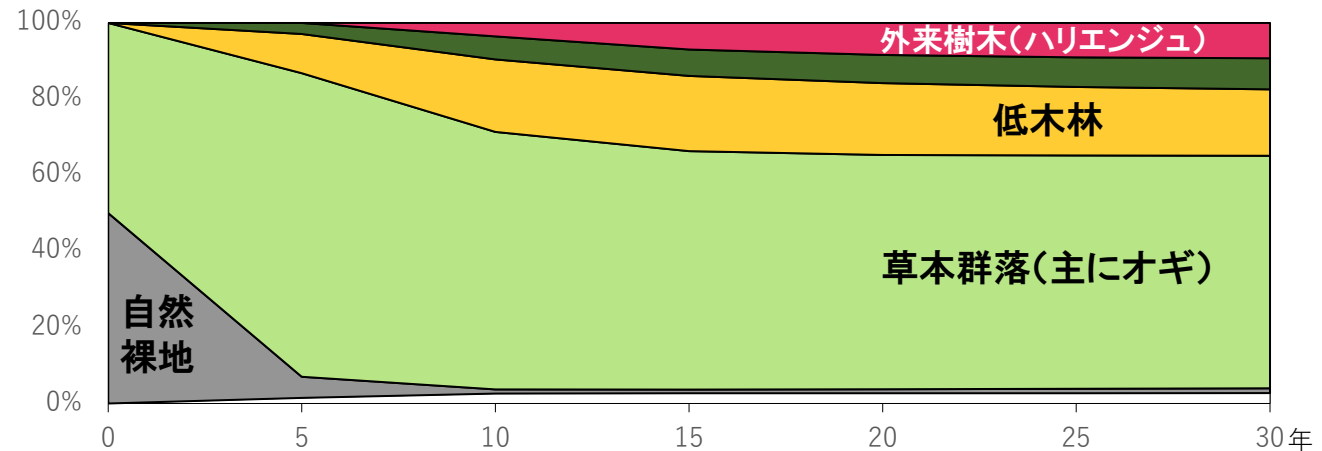
植生タイプ別の变化確率

地形条件

冠水の影響を受けない箇所

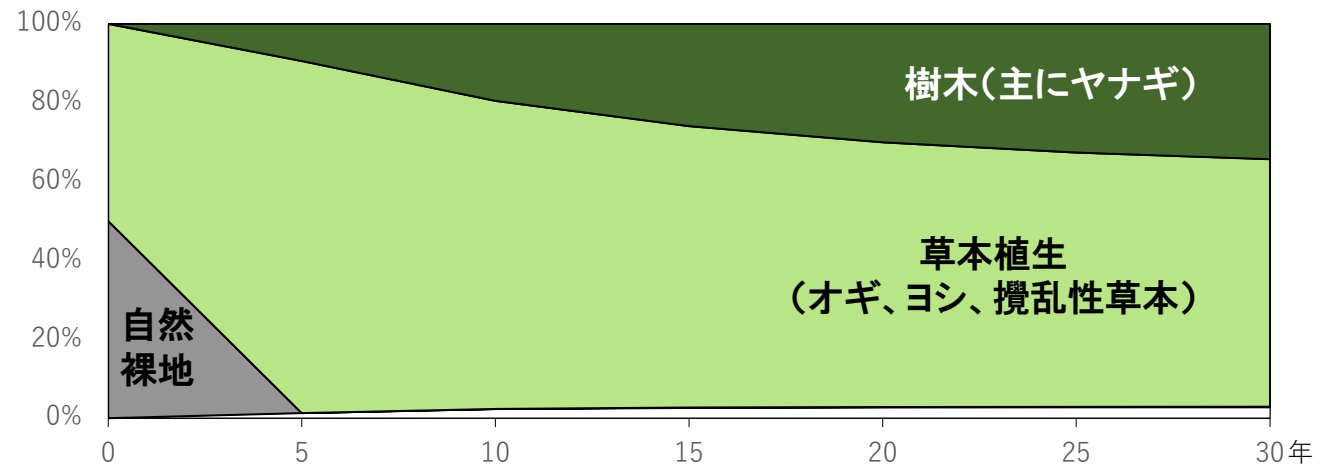
庄内川上流部 (セグメント1)

平水位+0.5m以上



揖斐川下流部 (セグメント2-2)

平水位+1m以上



植生管理の方針 | 冠水の影響を受けない箇所

庄内川上流
(セグメント1)

様子を見て
伐採

+

外来種への
注意

揖斐川下流
(セグメント2-2)

こまめに
早期伐採

or

条件変化
盤下げ

河川の性質・場所によって対応も変化
早期伐採をすれば良いというわけでない

まとめ

期待できる効果

- 川の姿が明確に視覚化。
- 植生変化と確率が予測でき
河川ごとの植生管理の計画を立案できる。

「型」にはまった画一的な川づくりではなく、
それぞれの河川に適した対応が可能に

まとめ

今後の方向性

- 多自然川づくりの内容は各河川で異なる。
- より河川に寄り添った維持管理になるよう性質を分析・把握、事業内容へと組み込む。

今年度より中部地方整備局の河川で実施
効率的な植生管理の実現を目指す